

「特定ケア看護師の診療所における役割・ニーズと可能性」

2020年10月12日～10月23日までの2週間、おおい町にあるなごみ診療所で研修を行わせていただきました。大飯原発の近くに位置し、海と山に囲まれた自然豊かな町のお洒落で綺麗な診療所でした。

診療所は患者さんとの距離が近く、気軽に診察に来れる・家に来てくれる「かかりつけ医」としての役割が大きいのが特徴です。また、医師はジェネラリスト（総合診療医）として全人的な視点での対応を求められます。看護師は、外来/病棟だけでなく訪問看護、老健施設での活動のみならず検査技師代行業務までこなし、幅広く業務を行っていました。

そういった中で、特定ケア看護師としての役割・ニーズは「医師が不在時の病棟・老健の管理」「看護業務の補完」「診察の補助（問診・身体所見・検査オーダー・外科的処置など）」がありました。病院とは異なり、少ない医師・看護師で幅広い業務をこなすことが求められる状況下では、双方の役割をこなす柔軟な立ち位置が求められます。

地域柄、通院困難な高齢者も多く、在宅医療のニーズも高いです。そこで、「訪問看護と訪問診療を同時に一人で完結できる存在」として特定ケア看護師の可能性を感じました。

特定ケア看護師の目的は、「医療の提供がままならない山間へき地過疎地における医療の提供」の促進、地域の健康を保持・増進することです。診療所での活動は、目的に即したものであると実感しました。

